

国際医療福祉大学 全天候スポーツフィールド整備事業の概要

1 事業名

全天候スポーツフィールド整備事業

2 事業の内容

全天候型グラウンドの整備 13,340 m²

※ただし、詳細測量の結果、数値が増減する可能性がある。

(ロングパイル人工芝 10,417 m²、ゴムチップウレタン舗装 2,923 m²)

3 趣旨・目的

本事業は、教育研究・学修環境の高度化、キャンパスの魅力向上、さらには大田原市の地域再生計画への貢献を目的とする大学施設グレードアップ・リニューアル事業の一環として実施するものである。大田原キャンパスのグラウンドを最新の人工芝グラウンドへ改修し、全天候型スポーツフィールドとして整備する。これにより、大学の教育・研究環境の向上を図るとともに、大田原市民へも施設を開放することで、市民のスポーツ活動の活性化、健康増進、多世代・多文化交流の促進に寄与する。

4 公益的な効果

本事業により、以下の公益的な効果が期待される。

- **スポーツ振興と健康増進への寄与:**
 - 全天候型人工芝グラウンドとなることで、年間を通して安定した利用が可能となり、市民のスポーツ活動の機会が増加する。
 - 悪天候時でも利用できるため、運動不足解消や体力向上、健康増進に繋がり、市民のウェルビーイング向上に貢献する。
 - 質の高いスポーツ環境を提供することで、地域のスポーツ団体の活動が活性化し、スポーツイベントや大会の誘致にも繋がり、スポーツ文化の振興を促進する。
- **地域コミュニティの活性化と多世代交流の促進:**
 - 大学グラウンドの市民開放により、学生と地域住民、子どもから高齢者まで多様な世代・属性の人々が交流する場が創出される。
 - スポーツを通じたコミュニケーションや地域イベントの開催により、大田原市民の一体感が醸成され、新たなコミュニティ形成を促進する。
 - 大学が地域貢献の拠点となることで、地域との連携が強化され、地域全体の活性化に寄与する。
- **安全・安心なスポーツ環境の提供:**
 - 人工芝グラウンドは、天然芝や土のグラウンドと比較して、転倒時の衝撃が緩和され、怪我のリスクを低減する。

- これにより、子どもから高齢者まで、幅広い年齢層の市民が安全にスポーツを楽しめる環境を提供する。
- **地域ブランド力の向上と誘致効果:**
 - 質の高いスポーツ施設は、地域の魅力を高め、地域ブランド力の向上に寄与する。
 - スポーツ合宿や大会の誘致により、市外からの来訪者増加が見込まれ、宿泊施設や飲食店など地域経済への波及効果が期待される。
 - 充実したスポーツ・教育環境は、子育て世代やスポーツ愛好家にとって、移住・定住を検討する際の魅力的な要素となりうる。

5 対象者、規模

- **対象者:**
 - **主たる対象者:** 国際医療福祉大学の学生、教職員
 - **副次的な対象者（市民開放部分）:**
大田原市民（子どもから高齢者まで全世代）、地域のスポーツ団体（少年サッカークラブ、陸上クラブなど）、市民ランナー、地域のイベント参加者
- **規模:**
 - **改修面積:** 13,340 m²（既存のグラウンドを人工芝化）
 - **施設内容:** 人工芝グラウンド（サッカー、陸上競技など多目的に対応可能なライン表示を想定）、付帯施設（更衣室、トイレ、シャワー室など既存施設を活用または一部改修を検討）
 - **開放時間:** 9時～21時（平日）、9時～17時（土日祝日）を基本とし、大学の利用状況やイベントに応じて柔軟に対応（詳細は今後検討）。
 - **利用形態:**
 - 基本的には事前予約制とし、個人利用、団体利用を可能とする。
 - 市民開放については利用料を設定し、施設の維持管理費用に充当する。
 - 地域のスポーツイベントや学校行事等への優先的な貸し出しも考慮する。
 - **開放頻度:**
教育活動や学生の課外活動、大学が主催する各種イベント（入学式、学位記授与式、運動会、風花祭、球技大会、オープンキャンパス、入学試験等）の開催に支障をきたさない範囲で積極的に大田原市民への貸し出しを行う。

6 想定スケジュール

2025年11月 工事開始
2026年3月 工事完成
2026年4月 運営開始
2026年5月 年間利用計画策定
同時に貸出・開放計画策定
2026年6月 市民開放募集開始

7 必要最低補助額で事業を実施する場合の概要

補助額が不足した場合は、自己資金で対応する。

以上